

掛下知行教授 日本金属学会第12回学術功労賞」受賞

工学研究科マテリアル生産科学専攻の掛下知行教授が、「日本金属学会 第12回学術功労賞」を受賞しました。

この賞は、金属の研究、工業の進歩発展ならびに日本金属学会の学術事業の推進に多年に亘って貢献した研究者に授与されるものです。昨年同学会の谷川・ハリス賞を受賞した「高温を含む環境下における材料の相変態ならびにそれに伴う組織形成に及ぼす磁場効果」や功績賞（金属物性部門、平成9年）、論文賞（昭和60年、平成6年、平成16年）等の研究業績に加え、金属学会本部理事、評議員、分科会委員会委員、会報編集委員会委員、欧文誌編集委員会委員、関西支部支部長、等さまざまな役職を担い、これまで多方面から同学会の運営に大きく貢献してきたことが評価されたものです。



（工学研究科・工学部）

免疫学フロンティア研究センターの審良静男拠点長がガードナー国際賞を受賞

カナダにあるガードナー財団は、2011年のガードナー国際賞（Canada Gairdner International Award）を大阪大学免疫学フロンティア研究センター（IFReC）の審良静男教授・拠点長とジュール・ホフマン教授（フランス国立科学研究センター、ストラスブール大学）、他3名に授与すると発表しました。授賞式と晩餐会は10月後半にカナダのトロントで行われます

ガードナー国際賞は、ラスカー賞と並んで、医学・生命科学の分野で最も権威のある賞の一つです。基礎医学および臨床医学分野で卓越した貢献を行った個人に授与され、同賞受賞者には多くのノーベル賞受賞者が含まれていることでも知られています。

審良教授の受賞理由は「数々のトル様受容体（Toll-like receptors; TLRs）の病原体認識機能の解析から、自然免疫による動物の感染防御システムにおける画期的な発見を行ったこと」です。

さらに審良教授は、予防接種の原理のもとになっている獲得免疫に対しても、TLRsが必須であることを示しました。そこで、TLRsの活性化を制御することがワクチン開発、



ガン治療、アレルギー、自己免疫疾患など数々の免疫疾患の治療開発に繋がると考えられ、日々研究されています。

（免疫学フロンティア研究センター）